

令和2年度入学 推薦（一般） 試験問題の出典

総合政策学部

種別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	資料A	高山 傑	(ニッポンの宿題) 目立つ 「観光公害」 —《なぜ》 数だけの勝負、素通り客も	朝日新聞 2018年4月21日 朝刊より  * 朝日新聞社/朝日新聞出版社 に無断で転載することを禁じます * ウェブサイト公開承諾番号 20-1664	朝日新聞社
	資料B 図1	日本政府観 光局	国籍/月別 訪日外国人数	日本政府観光局, ( <a href="https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html">https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html</a> )	日本政府観 光局
		図2	国土交通省 観光庁	訪日外国人の消費動向 2010-2018	国土交通省観光庁 ( <a href="https://www.mlit.go.jp/kanakocho/siryou/toukei/syohityousa.html">https://www.mlit.go.jp/kanakocho/siryou/toukei/syohityousa.html</a> )
	資料C	井門 隆夫	(ニッポンの宿題) 目立つ 「観光公害」 —《解く》 満足度高めて旅先を分散	朝日新聞 2018年4月21日 朝刊より  * 朝日新聞社/朝日新聞出版社 に無断で転載することを禁じます * ウェブサイト公開承諾番号 20-1664	朝日新聞社

総合政策学部

小 論 文 (90分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、5ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

資料(A)～(C)を読み、次の問いに答えなさい。

問1 資料(A)を参照し、文中で述べられている観光公害とは何かを200字以内で説明しなさい。

問2 資料(B)のグラフから、下記の問いに答えなさい。

(1) 訪日外国人旅行者について2018年は前年と比べて何倍になったかを計算しなさい。なお、小数点第3位を四捨五入して、小数点第2位まで答えなさい。

(2) 旅行消費額について、2018年は前年から何%伸びたかを計算しなさい。なお、小数点第3位を四捨五入して、小数点第2位まで答えなさい。

問3 資料(A)～(C)を踏まえて、訪日外国人旅行者に対して今後の日本の観光産業はどのような戦略を取るべきか、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

## 資料(A)

京都の町には世界中の人たちが魅力を感じ、訪れてくれます。私は京都生まれなのでうれしく思います。でも、最近は大挙して観光客が押し寄せることによる弊害、観光公害が目立っています。

観光路線沿いに住む住民はバスに乗れません。行きつけだったレストランがSNSで取り上げられ突然、人が殺到します。街中にある民泊用の古民家に観光客が出入りし、宿泊客が騒いだり、ゴミを乱雑に出したりもする。

食堂に入ってきた観光客が食事の客の皿に手を入れ、味見をして「同じものを」と注文したり、スナックを食べ歩きながら同じ手で舞妓（まいこ）さんの着物に触ったりする出来事も起きています。

清水寺や金閣寺へ、わびさびの静寂さや雅（みやび）な雰囲気を楽しんで訪れても、朝一番で行かないと、混雑ばかりで全く味わいがありません。至る所で京都らしい雰囲気が消えていったら、日本の文化を本当に愛する外国人が離れていく危険もあります。

老舗の料亭の中には、HPでの多言語表示をやめたり、電話で相手を探りながら予約客を決めたりする店が出てきています。その裏で、外国人観光客に輸入野菜を「京野菜」として食べさせる、地元資本以外の飲食店の話も聞きます。

観光地を徐々に劣化させるような現象が、起きているのです。

さらに深刻なのは、民泊需要で地価が上がっていることです。単なる空き地に1億円以上の売値がつくこともあり、不動産の取引が活発になっています。土地バブル現象は、京都に暮らし、京都という観光地の資産を守ってきたコミュニティを変化させ、空洞化させてしまいます。

顕著になったのは、日本にLCC（格安航空会社）が相次ぎ参入して以降で2012年ごろだと思います。安売りパッケージ旅行が進み、大勢の観光客が一気に押し寄せる現象が増えてきました。

日本全国そうです。お客さんをとにかく集め、送り込むという「発地型」の観光です。欧州では一気に2千人、3千人を運んでくるクルーズ船旅行の是非が問題となりましたが、この手の観光客が地元にお金を落とししてくれるかといえば、そうでもありません。

大阪や神戸から観光バスで淡路島へ行き、「花畑の中でウォーキングをする」ツアーがあります。出発するとき、バスにはすでに昼の弁当が積まれています。現地でウォーキングするのに、お金は必要ありません。結局、お土産しか買わない素通り客です。

こうした客のために、観光インフラ整備として、お金をつぎ込んで「公衆トイレの増設」をするのが妥当なのでしょうか。

訪日客の人数を増やすという、数の勝負だけの観光政策が問題です。観光立国をめざしているのに、旅行の人数や泊数、ツアーごとにどこでいくらお金を使うかなどの詳細なデータをモニタリングしていない。観光客の実態がいま一つわかりません。分析対象が正確に見えていないのです。

（高山傑、「(ニッポンの宿題) 目立つ「観光公害」－《なぜ》数だけの勝負、素通り客も」、朝日新聞、2018年4月21日朝刊より、一部改変)

資料(B)

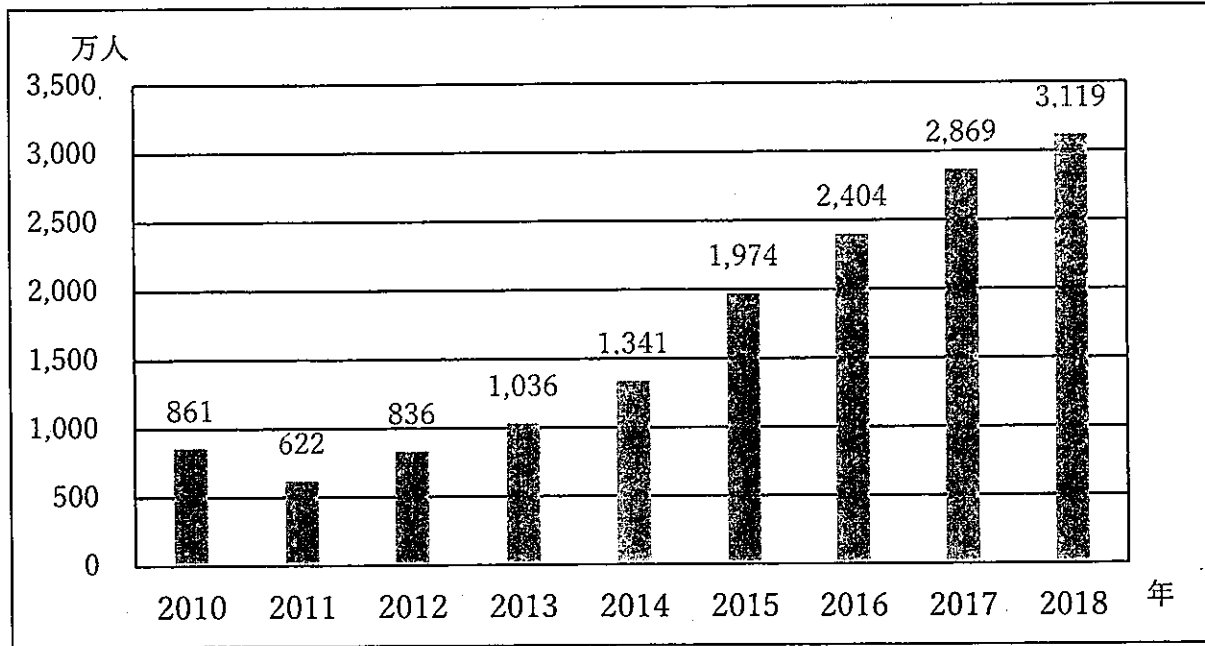


図1 訪日外国人旅行者数の推移

(日本政府観光局, 「国籍/月別 訪日外国人数」)

<[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor\\_trends/index.html](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html)>より作成)

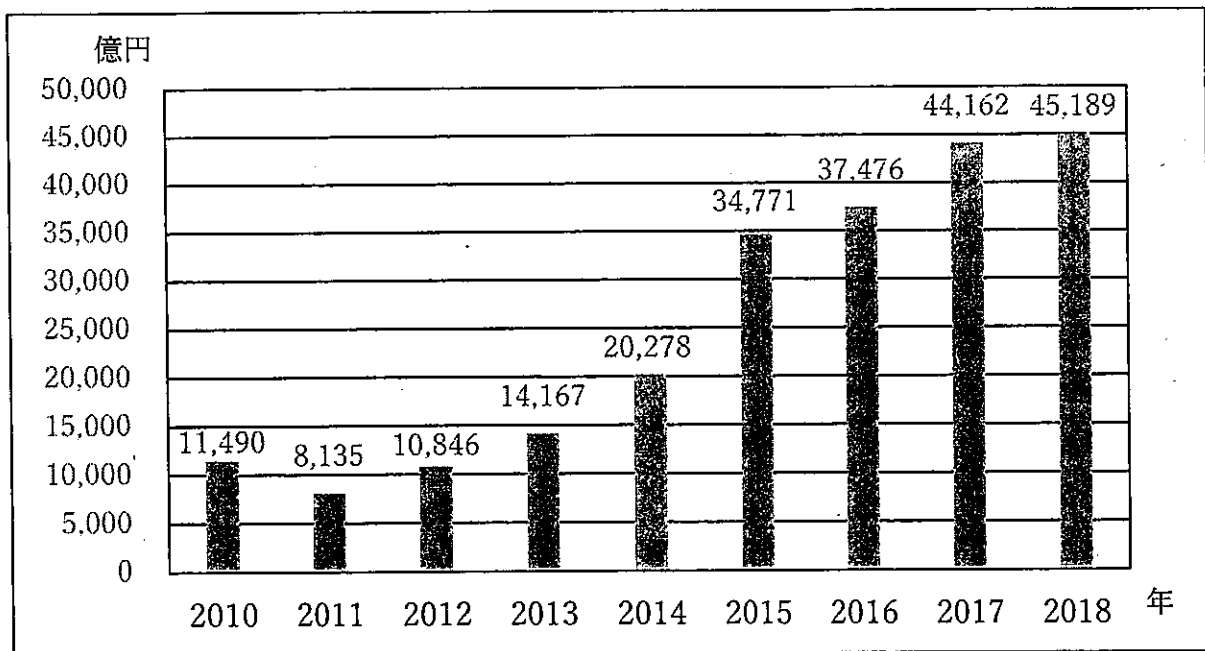


図2 訪日外国人の旅行消費額

(国土交通省観光庁, 『訪日外国人の消費動向』2010-2018)

<<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/syouthityousa.html>>より作成)

## 資料(C)

観光は今後の日本の経済成長にとって有望な産業です。ですから、観光公害よりはるかに恐ろしいのは、訪日客数が止まってしまうことです。日本人で国内宿泊旅行に行った人の割合は、給与総額が頭打ちであることも影響して、2016年までの10年間、落ちています。だから訪日客の増加は、歓迎すべきことなのです。

ただ、観光公害が目立ち始めているのは事実。「このままだと、いずれ深刻な事態になるよ」という警告の段階といえます。ある特定の都市なり観光地に訪問者が増えすぎることによる弊害が目立ち始めると、住民も観光客も快適ではなくなります。この解決に向け、鉄道やバスの運転本数を増やしたり、宿泊施設を整備したりなど、インフラ対策として手がけられることはあります。

お金をほとんど落とさない日帰り客、素通り客への対策として、イタリアのベネチアでは町の入場料を取る案もかつて出ました。ただ、壁で囲われるとテーマパークになりかねない、などの理由で実現しませんでした。結局、一気にやってくる素通り客からは、お金を取る有効な対策はないのです。

中長期的にもっとも効果的な対策には、観光客を1カ所に集中させず、「分散」させることがあります。地域、時期、曜日などで分散させるのですが、もちろん口で言うほど簡単ではありません。たとえば、ガウディの建築を見たくてスペインのバルセロナへ初めて旅行する人には、それは絶対的で唯一の観光コンテンツです。ほかの地域を薦めたところで、意味がありません。

でも、人間は「飽き」ます。4回も5回もガウディを見た人に「今度はこちらへ」と言えば、分散へと促せる可能性もあります。ということは、複数回その国に旅行するリピーターをいかに増やせるか、という問題に帰着します。

初めて行った観光地で混雑にうんざりしたら、印象は悪くなり、二度と来たくなくなるかもしれません。観光公害への対策は対症療法であるという以上に、リピーターを獲得し、分散を促すための大きな戦略なのです。

満足して帰ってもらうには、「満足度」を向上させるしかありません。総合的な施策が必要ですから、特に観光公害が起きている地域では、自治体任せではなく、国策として国が引っ張っていかないと効果は上がりません。

観光庁も「分散」「リピーター」を掲げて、満足度を上げるための事業を支援しています。

たとえば、宿泊施設の表示の多言語化や公衆無線LAN設置、トイレの洋式化などに、3分の1の補助金を出す事業があります。日本では宿泊業の94%が資本金5千万円未満の小規模事業者で、61%が1千万円未満です。満足度が低いとされるこれらの小規模事業者のインフラ整備で、宿の快適度を上げるねらいですが、残りの自費負担分を出せない事業者が多い現実があります。

債務超過でバランスシートが悪く、その原因をたどると先代がバブルのときにつくった借金のことがある。小さな飲食店も同じことがいえます。クレジットカードは使えなかったり、喫煙可だったり。整備する資金の余裕がない。簡単には解けない問題ですが、一つひとつの満足度を高めないと、全体の底上げにはなりません。

観光は「人数×泊数×回数」だと思います。このうち旅先が分散すれば「泊数」は増え、リピーターがいれば「回数」が増える。泊数と回数を増やして延べ客数を増やしていく施策が大切です。旅館の「泊・食」分離な

ども含めて、きめ細かいリピーター対策が必要になってくるでしょう。

(井門隆夫, (ニッポンの宿題) 目立つ「観光公害」－「《解く》満足度高めて旅先を分散」, 朝日新聞, 2018年4月21日朝刊より)